

# 弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

文学部・日本語・日本文学科  
井上 裕太

作成日 2024年1月30日

## 1. 教育の責務

2022年（令和4年）度から弘前学院大学文学部日本語・日本文学科に採用され、本年（2024年）で2年となる。 学芸員課程を主に担当し、講義、実習科目を受け持っている。そのほか、教養演習、社会教育士の資格科目である生涯学習支援論2も担当している。				
2023年度担当授業				
科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
教養演習A	2年	講義	前期	明治以降の野球の歴史
教養演習B	2年	講義	後期	明治以降の音楽文化
生涯学習支援論2	2年	講義	後期	生涯学習支援のための理論と技術
博物館概論	1年	講義	後期	博物館に関する基礎知識
博物館経営論	2年	講義	後期	博物館経営の現状と課題
博物館資料論	2年	講義	前期	博物館資料に関する基礎知識と活用
博物館資料保存論	2年	講義	後期	資料保存の基礎
博物館展示論	2年	講義	前期	展示の理念と具体的方法
博物館教育論	2年	講義	前期	博物館教育の意義、理念、歴史、現状と課題
博物館実習 I	3年	実習	通年	学芸員に必要な資料の取り扱い
博物館実習 II	4年	実習	前期	館務実習、事前・事後指導

## 2. 教育の理念

博物館をめぐる昨今の状況は刻々と変化している。そのため、机上の勉強のみならず、最新の動向に目を見張り、実際に博物館に足を運ぶなどして積極的に見聞を広めるよう、学生には意識して欲しい。そうした学生を育成するためにも、基礎知識を踏まえた上で、最新のトピックなども交えつつ、博物館をより身近に感じられるような授業を行うこと、これが私の博物館学教育の理念・目的である。

具体的には授業等の教育活動において実践されるが、講義科目、実習科目それぞれで以下のような方針・姿勢で行っている。

### 1. 講義科目の場合

博物館の歴史的経緯や現状、課題について、国内外の諸事例をもとに、テキストや映像などを用いて講義する。

### 2. 実習科目の場合

博物館実習Ⅰでは見学実習、博物館実習Ⅱでは館務実習を行う。実習中の経験を通じてより理解を深めるために、事前指導では実習先の概要や活動内容など、幅広く学習できるよう心掛ける。また、事後指導では、実習の成果について自ら考え発表する機会を設ける。

上記1. 2. を総合して、博物館について学際的に考え、言語化する力を身に付けるための一助とする。

## 3. 教育の方法

### 1. 講義科目の場合

教材としては、過去の文献・資料が基礎となるが、博物館法の改正や、博物館の置かれた環境の変化など、博物館の状況は日々刻々と変化している。そのため、最新の動向をつぶさに調べ、統計資料や各博物館の取り組み事例を紹介するなど、現代的課題にも関心を持てるように説明している。

その際に、参考となるホームページや映像資料を紹介し、自学自習にも役立てられるよう、心掛けている。

### 2. 実習科目の場合

博物館実習Ⅰでは、博物館の見学に際して、鑑賞者としてのみならず、学芸員の目線での鑑賞ポイントを伝え、多角的に物事を考察する力を養えるよう努めている。見学実習を踏まえ、各自のテーマを設定し、プレゼン発表を行っている。ディスカッションを多く取り入れることで積極的に物事について考えるよう促している。

博物館実習Ⅱでは、事前指導で実習館について様々な観点からまとめたプレゼン発表を実施している。質疑応答や自己評価によって浮き彫りとなった課題は、実習へ行く前に解決し、実習中により効果的に学習できるよう工夫している。事後指導でも、実習報告についてのプレゼン発表を行い、自らの実習内容を顧みて、自己評価を行う。

1. 2. いずれの授業においても、課題の口頭発表を取り入れており、他者の意見を聞き、質疑応答を通して活発な意見を交わすことで、より理解を深化できるよう意識している。

#### 4. 教育の成果

評価について、「授業評価アンケート」結果を踏まえて記す。

1. 「学生自身の自己評価」に関して

1-1. 一部科目では、「この授業（講義・演習・実習・実技）によく出席している」が学部・全学平均値より低かった。

1-2. 一部科目では、「事前学修(予習)・事後学修(復習)に取り組んでいる」も学部・全学平均値より低かった。

2. 「授業担当者に対する評価」に関して

2-1. 一部科目では、「提出したレポートや課題をチェックして学生に返し、授業の理解に役立てようとしている」が学部・全学平均値より低かった。

2-2. 一部科目では、「学生の質問や意見に適切に対応している」が学部・全学平均値より低かった。

3. 「授業内容に対する評価」に関して

授業評価アンケートを実施した科目の全当該項目が、全学及び学部の平均値と同評価であり、それほど低い評価ではなかった。

#### 5. 教育の改善

上記4の「授業評価アンケート」結果を踏まえて、改善すべき点を記す。

1-1. 席の目立つ学生については、チャットで個別に連絡を取り、出席するよう指導するなど、出席率を高められるよう改善したい。

1-2. 予習・復習を必ず行い、理解を深めるよう授業内で指導したい。

2-1. レポートの返却にあたっては、内容に関するコメントを更に丁寧に書くなど、より理解を深められるような工夫を施したい。

2-2. 毎回授業のまとめ・感想をコメントペーパーに記入・提出してもらい、出た質問に関しては、次の授業冒頭で回答するなど、対応しているが、より丁寧に回答し、学生が理解を深められるような工夫を施したい。

3. 現状を維持しつつも、事例を多く紹介し、より理解を深められるような工夫も盛り込んでいきたい。

## 6. 教育の目標

「授業評価アンケート」の結果を踏まえて、授業方法や工夫の仕方の足らざる部分を補い、改善・工夫を進めたい、その結果の可視化については、1～2年後を目途に達成したい。

博物館をめぐるっては、法改正や政策の動静など、日々多くの状況が変化している。時代に即した内容に授業内容を日々更新し、そうした変化についても漏らすことなく、分かりやすく的確に伝えられるよう努めたい。また、伝えるばかりでなく、学生が主体性を持って、そうした事象について学習できるよう、工夫した授業を展開することを目標とする。

### 【資料】

1. シラバス
2. 授業評価アンケート
3. 試験結果、および課題レポート結果
4. 授業改善書